

長崎街道ゆかりのまちを訪ねて

# 新大工町

ふるさと再発見

地域特集

長崎市

Nagasaki City



江戸時代、長崎と小倉を結んだ五十七里（約二百二十四キロメートル）の道、長崎街道。九州唯一の脇街道として整備されたこの道は、他の街道と比べても行き交う人々の顔ぶれがちよっと異色。江戸へと向かう青い目をしたオランダ商館長、夢を抱いて長崎へと急ぐ幕末の志士や文人墨客。シーボルトや坂本龍馬も歩けば、時には象やラクダも通るといっわけで、長崎街道は実にユニークな道だった。

長崎市新大工町の小さな十字路の隅には「長崎街道ここに始まる」の碑が建っている。交通量が多く、ともすれば見落としてしまふような場所にあるものの、ここが街道のスタートのようだ。新大工町といえば市場を含めた活気ある商店街で知られている。昔ながらの風情を残しつつ、これほど元氣な商店街は今や長崎市内でもそう多くはない。それでもやはり商店街を訪れる人の数は年々減少傾向にあるという。

現在、新大工町商店街は再開発を見据えながら、新たなまちづくりに奮闘している。商店街を支える店主たちからは「自分たちがやらなければ」という強い思いが感じられ、まちを愛する気持ちがダイレクトに伝わってきた。

